



GILLETTE ATTRACTS

Ferdinando Frega — Nando the Scribe

GILLETTEは引き寄せる

これまでの人生で、私はいつも3つの根本的なことに細心の注意を払ってきた。教えるのではなく、やって見せることで学ぶこと。意図をもって観察しながら、決して縛らないこと。そして、昔から何よりも愛してきたもの — 女たちの対話とコミュニケーションだ。沈黙のうちに、自分のしぐさだけで、すべてを語り、すべてに触れる唯一のかたち。それも、一度も手を使わずに。

そしてgillettenarrativeという着想は、控えめに言っても驚くような、女性的な効果を生み出している。

私に書き送ってくる若い書き手たちがいる — 物語、空想、真実、半分だけの真実、そのほか書くことが差し出せるすべてを。自分の居場所を勝ち取り、場を切り開き、出版にこぎつけようとして。その意図は、私には完全に理解できる。期待と希望が会う場所だ。だがそこには、必然と必要とを見分ける本当の評価が、いつも欠けている。

私はいつもこう答えてきた。自分はカラブリアの一介の書記にすぎない。イタリア語は10点満点の4、クラスでびり、どんな順位表からも完全に外れていた男だ — そして目標にたどり着くには、つねに粘り、前へ進まなければならない。自分の母親の力量をいつも見つめながら。私たちのXファクターが本当はどれほどの値打ちなのかを教えてくれるのは、母親なのだから。

届いた物語のなかから、私を微笑ませ、考えさせ、省みさせた3つを選んだ。ここに添えて、gillettenarrativeの読者と分かち合いたい。

ベゾスの話は外せなかった。

彼の市場での取引のいくつかは失敗に終わった。Amazonの持ち分はほとんどすべて売ってしまい — いま握っているのは株式の8パーセントほどにすぎない — ブランドを築き上げ、それが他人の手に売り渡された人物として、歴史に残っている。

近年の彼の最も重要な決断のひとつは、多角化して生産に投資することだった。一軒一軒まわる新聞売りから、出版人にして宣伝屋へ。それから製造業への出資を始めた — 具体的には、セルロース産業にも。

どうやら妻は彼に賛成ではなかったらしい。すでに一度離婚していたのに、また結婚するという癖は抜けていなかった。そしてあるとき、気がつけば貧乏になっていた。

妻は彼を哀れに思い、友人のワトソン夫人に電話をかけた — 誰だかご存じない方のために言えば、世界最大の食品流通チェーン、Walmartの所有者である — 家から遠い店舗で彼を雇ってやってほしい、と。そうすれば自分のために使える時間が増えるからだ。

勤務初日。売り場の主任は彼に制服を着せ、読み物のコーナーへ連れていった。信じられないだろうが — そこに並んでいたのはGILLETTE AMORE ONE WOMANだった。そして本に書かれたフェルディナンド・フレーガという名前を読んだとき、誰かを思い出した。かつて自分のアルゴリズムを爆破した人物だと気づくまで、長くはかからなかった。

この物語の作者は、こんな一行で締めくくっている。運であれ愛であれ、いつだって女のために。

そして私にこう尋ねる。

あなたの本を読むと、女性について語ることは決してない — でも女性と語り合っている。どうやってそんなことができたのですか。

答えは簡単だ。わかり次第、お知らせする。

フェルディナンド